

科 目 名
西洋建築史 History of European Architecture

2年 前期 2単位 必修
内 丸 恵 一

【科目区分】

学士課程共通の学習効果との対応：1-(1), 1-(2), 2-(4), 3-(5)
建築学科教育カリキュラムとの対応：

学習・教育目標	JABEE基準1の(1)の知識・能力	コース名	必修／選択の別	授業時間
B	— a, d-1	建築総合コース	必修	22.5時間
		建築計画コース		
		建築構造コース		

【概要】

現代建築の基本となるモダニズムの建築は、西ヨーロッパを中心とした建築の歴史を基盤にしながら、それとの批判的対決の末に獲得されたものであった。それ故現代建築に取り組む者にとって、西洋建築の歴史を学ぶということは、単なる教養ではなく、みずからの足元を見つめ、その根拠を探るという意味を持つ。西洋建築史は、すぐに役に立つノウハウではなく、将来に渡って建築を創ろうとする者にとっての思考のバックボーンになるのである。本講義では紀元前7世紀の古代ギリシャから古代ローマに至る古典時代、キリスト教を中心とした中世、ルネッサンスに始まる近世から19世紀の近代初期までの約2500年のヨーロッパの建築の歴史を講ずる。

【到達度目標】

- (1) 古代ギリシャから19世紀までの西洋建築の変遷の大きな流れを理解する。
- (2) 基本的に知っておかなければならない歴史的建築物について理解する。
- (3) それぞれの時代の建築様式が成立した歴史的・社会的背景を理解する。
- (4) 歴史的建築物の空間構成や意味を読み取る見方を学び、将来のみずからの建築活動のためのバックボーンとして理解する。

【授業計画】

テーマ	内 容
① 全体の概要	西洋建築史の全体的な流れ
② 古代ギリシャ・1	古代ギリシャ文明の概要、エーゲ文明の建築、ギリシャ神殿の形式、アルカイック時代とクラシック時代の建築
③ 古代ギリシャ・2	アテネのアクロポリス、ヘレニスティック時代の建築と都市計画、古代ギリシャの建築思想
④ 古代ローマ・1	古代ローマ史の概略、古代ローマ建築の基本的造形、ローマ神殿
⑤ 古代ローマ・2	古代ローマの都市と公共建築、都市住宅、宮殿とヴィラ
⑥ 中世のはじまりと初期キリスト教建築	中世をかけたちづくもの、中世キリスト教建築の全体的流れ、集中式とバシリカ式
⑦ ビザンティン建築	歴史的背景と西洋建築史の中での位置づけ、ハギア・ソフィア聖堂
⑧ プレ・ロマネスク建築	歴史的背景とシャルルマーニュ、西構えの構成、修道院の発達
⑨ ロマネスク建築・1	歴史的背景とロマネスク建築の概要、ドイツロマネスク
⑩ ロマネスク建築・2	フランスロマネスク（巡礼路教会堂、クリュニ派、シトー派）、ノルマンロマネスク、イタリアのロマネスク
⑪ ゴシック建築	社会的背景と建築の特徴、フランスゴシックの展開、イギリス
⑫ ルネッサンス建築・1	社会的背景と建築的特徴、初期ルネッサンス、盛期ルネッサンス
⑬ ルネッサンス建築・2	ミケランジェロとマニエリズム
⑭ バロックと古典主義	バロック時代の社会的背景、イタリアバロックとフランス古典主義
⑮ 新古典主義と様式の崩壊	社会的背景、フランス・ドイツ・イギリスの新古典主義
⑯ 定期試験	学生自身による自己評価

【授業方法】

配布プリントに沿って、適宜スライドやビデオを使いながら授業を行う。

【学習到達度の評価】

- 1) 授業中に学生から質問を受け、必要な場合は講義内容に関する補足説明を行う。
- 2) 受講生全員に配布プリントを筆写させ、適宜チェックして、遅れている学生には指導する。
- 3) 試験終了後に時間を設けて、試験の講評を行う。

【評価方法】

- 1) 定期試験に加え、適宜ノートを提出させ各自の学習内容を判定し、評価の参考とする。
- 2) 全授業終了後に、学生自身による自己評価を行う。

【関連科目】

2年：近代建築史

【教科書・教材】

教 材：配布プリント
教科書：日本建築学会 編 西洋建築史図集（彰国社）

【参 考 書】

西洋建築史入門（森田慶一、東海大学出版会）
ヨーロッパ建築史（西田雅嗣 編、昭和堂）
図説西洋建築史（陣内秀信 他、彰国社）

【履修上の注意】

- 1) 目先のことだけでなく、将来自分の建築を創っていくための基盤を学ぶつもりで取り組んでほしい。
- 2) ただ講義で教えられたことを理解するだけでなく、西洋の美術、芸術や歴史に興味をもってほしい。そうすれば日常生活からも学ぶ機会が増えるはずである。

【オフィスアワー】

講義終了後1時間、研究室にて講義内容に関する質問を受け付ける。